

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-①】

<p>タイトル</p>	<p>ぼご けいしやうご ぼぶんかきやういく きかい ほしやう こ 母語 (継承語)・母文化教育の機会を保障し、子どもたちのアイデンティティ を育成するための仕組みづくり</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>にほんごきやういく すいしん かながわけん がいこく こ ・日本語教育の推進のように、神奈川県として外国につながる子どもたちの ぼご ぼぶんかきやういく じゅうやうせい めいかくか こ ぼご ぼぶんか ぶ 母語・母文化教育の重要性を明確化し、子どもたちが母語・母文化に触れ、 まな ば きかい ほしやう じぎやう こうちく 学べる場や機会を保障する事業を構築する。</p>
<p>りゆう 理由</p>	<p>げんざい かながわけん す がいこく こ かず ぞうか ・現在、神奈川県に住んでいる外国につながる子どもの数は、増加している。 おや らいにち せいかつきばん つく こ よ おお 親が来日して生活基盤を作り、子どもを呼び寄せることも多くなっている。 らいにちご にほん く つづ こ にほん う こ 来日後、日本での暮らしを続ける子どもたち、また日本で生まれた子どもたち が成長の過程で、母語や母文化を学ぶ機会を得ることは、子どもたちのアイデ ンティティの育成において、非常に重要なことだと考える。 かながわけん ねん ちいきにほんごきやういく とりくみ かいし がいこく ・神奈川県は 2020年から「地域日本語教育」の取組を開始した。外国につな がる人々が日本語を学ぶ機会を保障する点では、少しずつ前進していると感じ ている。 にほんご まな にほん せいかつ な たいせつ ・日本語を学び、日本での生活に慣れていくことはとても大切なことである。 ただ、成長の過程で自分のルーツについて知り、学ぶことも必要不可欠だと かんが ざんねん がいこく こ じぶん かぞく 考える。残念ながら、外国につながる子どもたちのなかには、自分の家族やル ーツに自信を持たず、否定的に捉えてしまう現状も見える。 ほごしや まいにち しごと せいかつ お かていない ぼご ぼぶんかきやういく じっし ・保護者は毎日の仕事や生活に追われ、家庭内で母語・母文化教育を実施する ことはとても難しいので、学校教育や地域活動の中で学べる機会を保障する ひつやう がある。そのためには、日本語教育の推進だけではなく、神奈川県として ぼご ぼぶんかきやういく すいしん ちから い と く ひつやう 母語・母文化教育の推進にも力を入れて取り組む必要がある。 かながわけんない じっし ぼごきやうしつ しょ ・神奈川県内で実施されている母語教室は5か所 (スペイン語、ミャンマー 語、タイ語など) あり、このほか民族学校やコミュニティ内で行われている きやうしつ 教室もあるが、限られている。NPO法人や個人の尽力により実施されているケ ースが多いのが現状である。すでに個人や NPO団体が実施する事業を支える ききん さんざい にほんごきやういく すいしん かながわけん せつきよくてき 基金などは存在するが、日本語教育の推進のように、神奈川県が積極的に ぼご ぼぶんかきやういく じゅうやうせい みと きかい ほしやう しさく とりくみ つく 母語・母文化教育の重要性を認め、その機会を保障する施策や取組を作るこ とが必要である。 ひつやう ○ 県内の母語教室 : https://www.kifjp.org/classroom/native-list/</p>

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-②】

<p>タイトル</p>	<p>たぶんかきょうせいしゃかい みす けんりつこうこう きょういくじっせん 多文化共生社会を見据えた県立高校の教育実践 —「国際理解教育」と「母語(継承語)教育」の推進—</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>1 けんりつこうこう こくさいりかいこうざ せつち いぶんか まな 県立高校にて国際理解講座を設置し、異文化を学ぶ。 よこはまし しりつしょうがっこう ねんかん くにのこをまな 横浜市の市立小学校では、1年間1つの国のことを学んでいる。あくまで 期間は1年間、対象は小学校全校生であるため、コマ数や授業の内容は 物足りないものとなっている。このため、コマ数を増やし、実質的な授業 内容とした講座を高校に設けることとする。 ・1年間外国人の講師を招く。 ・様々な国の社会・経済・文化について学ぶ。 ・世界から見られている日本社会について学ぶ。 ・世界の高校生たちとの交流の場(対面・オンライン)を設ける。</p> <p>2 けんりつこうこう ぼご けいしやうご きやういく すいしん 県立高校での母語(継承語)教育の推進 がいこくにつながら こうこうせい ぼご けいしやうご にふれ まな きかい え 外国につながる高校生が母語(継承語)に触れ、学ぶ機会を得る。 ・母語(継承語)授業を通して母語・母文化に触れることで、自分のアイデン ティティの確立の一助となる。 ・外国につながるある人材の育成・活用にもつながる。</p>
<p>りゆう 理由</p>	<p>1 たぶんかきょうせいしゃかい こくさいりかいきやういく けんりつこうこう ふきやう かくだい 多文化共生社会での国際理解教育を、県立高校で普及・拡大する。 げんざい かながわけん にほん がいこくじん おおぜいす きやうせい 現在、神奈川県には日本だけではなく、外国人も大勢住んでいる。共生し ていくためには、お互いに相手のことを学んでいく、分かっていることが 大事である。外国人は来日し、日本の文化と言葉を学ぶ機会が沢山あるが、 日本人には、自分から求めないとなかなか異文化を学ぶチャンスはない。 しゃかいじん まえ がっこう こくさいりかいきやういく かんてん きかい ていきやう 社会人になる前、学校で国際理解教育という観点から機会を提供したい。</p> <p>2 らいにちご にほん く つづ こ にほん う 来日後、日本で暮らしを続ける子どもたち、また日本で生まれた子ども たちの成長、アイデンティティの育成において、母語や母文化を学ぶ機会を がっこうきやういく ちいきかつどう なか ほしやう たいせつ 学校教育や地域活動の中で保障することがとても大切である。 ・かながわけん こうとうがっこう だい がいこくご じゆぎやう 神奈川県の高専では第2外国語の授業が行われているが、「外国語」 として学ぶだけではなく、「母語・継承語」として学ぶ機会として捉え、 かながわけん げんじやう あ げんご けんとう がいこく せいと おお 神奈川県の現状に合わせて言語を検討したり、外国につながる生徒が多い こうこう ひろ 高校に広げられるようにする。 ・おし がわ いくせい たいせつ にほん そだ わかもの かつやく ば かくほ 教える側の育成も大切である。日本で育った若者が活躍する場の確保や、 こうこうせい じぶん しょうらい かんが うえ で あ ぼ せいと 高校生が自分の将来を考える上で、モデルケースと出会う場としての意味 もある。 ・がいこく せいと 外国につながる生徒だけではなく、ともに学ぶ生徒たちにとっても、今後 たぶんかきょうせいしゃかい きず うえ きやうせい かんが まな きかい の多文化共生社会を築いていく上で、「共生」を考え学ぶよい機会になる。</p>

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-③】

<p>タイトル</p>	<p>こうりつこうこう ざいけんがいこくじんとうとくべつぼしゅうわく かくだい がくしゅうしえん 公立高校の在県外国人等特別募集枠の拡大・学習支援</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>かながわけんがいこくじんとうこうこうじゅけんとうとくべつぼしゅう ぼしゅうわく ふ ・神奈川県外国人等高校受験特別募集の募集枠を増やす。 しゃかい りか がくしゅうしえん ふ ・社会と理科の学習支援を増やす。</p>
<p>りゆう 理由</p>	<p>かながわけん ざいけんがいこくじんとうとくべつぼしゅう しゅつがんしかく れいわ ねんいこう ・ 神奈川県 の 在 県 外 国 人 等 特 別 募 集 の 出 願 資 格 に つ い て 、 令 和 4 年 以 降 の にゅうがくしゃせんぼつ にゅうこくご ざいりゅうきかんようけん ねんい ない ねんい ない へんこう 入 学 者 選 抜 で は 、 入 国 後 の 在 留 期 間 要 件 が 3 年 以 内 か ら 6 年 以 内 に 変 更 さ たいしょうしゃ かくだい れ 、 対 象 者 が 拡 大 さ れ た 。 いっぽう かながわけんざいじゅう がいこく つな じどうせいと まいとしふ ・ 一 方 で 、 神 奈 川 県 在 住 の 外 国 に 繋 が り の あ る 児 童 生 徒 は 毎 年 増 え て い る の こうりつこうこう ざいけんがいこくじんとうとくべつぼしゅう わく かくだい ひつよう で 、 公 立 高 校 の 在 県 外 国 人 等 特 別 募 集 の 枠 を 拡 大 す る 必 要 が あ る 。 にほん こうこう しんがく さい じゅけん ひつよう かいがい す こ ・ 日 本 の 高 校 へ 進 学 す る 際 に は 、 受 験 が 必 要 と な っ て い る 。 海 外 で 過 ぎ た 子 らいにちご しんがく ねん ぎ むきょういく しゅうりょう ど も は 来 日 す ぐ に 進 学 で き ず 、 9 年 の 義 務 教 育 も 終 了 す る た め 、 フ リ ー ス ねんかんこうこうじゅけん べんきょう げんえき ちゅう せいと いっしょ ク ル で 1 年 間 高 校 受 験 の た め の 勉 強 を し て 、 現 役 の 中 3 の 生 徒 と 一 緒 に じゅけん え 受 験 せ ざ る を 得 な く な っ て い る 。 きほんかもく こくご えいご すうがく しゃかい りか がくしゅうしえん ふ ・ 基 本 科 目 で あ る 国 語 、 英 語 、 数 学 だ け で は な く 、 社 会 と 理 科 の 学 習 支 援 も 増 ひつよう かいがい らいにち こ にほん しゃかい りか にがて や す 必 要 が あ る 。 海 外 か ら 来 日 し た 子 ど も た ち は 、 日 本 の 社 会 と 理 科 が 苦 手 の ばあい おお じゃくてん こくふく にほん こうこうじゅけん えら がっこう ふ 場 合 が 多 い 。 弱 点 を 克 服 す る こ と で 、 日 本 の 高 校 受 験 で 選 べ る 学 校 が 増 え 、 しんろ せんたくし ひろ 進 路 の 選 択 肢 が 広 が る 。 にほん せいかつ にほん しゃかい なじ にほん しゃかい りか ・ 日 本 で 生 活 し 、 日 本 の 社 会 で 馴 染 ん で い く た め に は 、 日 本 の 社 会 と 理 科 を べんきょう いみ がくしゅうしえん こくご えいご すうがく 勉 強 し な け れ ば な ら な い 。 そ う い う 意 味 で も 、 学 習 支 援 は 国 語 、 英 語 、 数 学 、 しゃかい りか かもく ひつよう 社 会 、 理 科 の 5 科 目 が 必 要 で あ る 。</p>

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-④】

<p>タイトル</p>	<p>ざいりゅう こうしん ともな しょうてつづき かん けんいき そうごうてき じょうほうていきょうたいせい せいび 在留カード更新に伴う諸手続に関する県域での総合的な情報提供体制の整備</p>
<p>内容</p>	<p>かながわけん ちゅうしん ざいりゅう こうしん ひつよう かくしゅかんれんてつづき ・神奈川県が中心となり、在留カードの更新に必要な各種関連手続について、 けんない ざいりゅう がいこくせきけんみん たい そうごうてき わ あんない じょうほうていきょう 県内に在住する外国籍県民に対し、総合的かつ分かりやすく案内できる情報提供 たいせい けんいき せいび 体制を、県域で整備する。</p> <p>1 けんいきない あんないたいせい せいび かんけいしゃ しゅうち いくせい 1 県域内における案内体制の整備と関係者への周知・育成 かながわけん しゅたい けんいきない しゅく ちやうそん くやくしよ しやくしよなど ぎやうせいきかん 神奈川県が主体となり、県域内の市区町村（区役所・市役所等）の行政機関にお いて、ざいりゅう こうしん かんれん おも てつづき こうしんとう いて、在留カード更新に関連する主な手続（マイナンバーカード更新等）について、 きほんてき あんない たいせい せいび まどぐちたんどうしゃ ひつよう ちしき も 基本的な案内ができる体制を整備する。そのために、窓口担当者が必要な知識を持つ たいおう けんいき せいび じょうほう せいり きやうゆう きそてき ちしき しゅうち けんしゅうどう すす て対応できるよう、情報の整理・共有や、基礎的な知識の周知・研修等を進める。</p> <p>2 がいこくせきけんみん こうかてき じょうほうでんたつしゅだん どうにゅう じゅうじつ 2 外国籍県民への効果的な情報伝達手段の導入・充実 じょうき じょうほうていきょうたいせい きぼん けんない がいこくせきけんみん たい ひつよう じょうほう かくじつ 上記の情報提供体制を基盤として、県内の外国籍県民に対し、必要な情報を確実 にとどけるため、い か ぐたいてき じょうほうでんたつしゅだん どうにゅうおよ じゅうじつ ていあん に届けるため、以下の具体的な情報伝達手段の導入及び充実を提案する。 ぎやうせいまどぐち きやうつう あんない せいび ・行政窓口における共通の案内ツールの整備 とう どう ばいたい かつよう せつきよくてき じょうほうはっしん ・ウェブサイトやSNS等のデジタル媒体を活用した積極的な情報発信</p>
<p>理由</p>	<p>ざいりゅう こうしん じき こうしんご ひつよう かくしゅてつづき じゅうぶん りかい ・在留カードの更新時期や、更新後に必要となる各種手続について十分に理解されて いないケースが多く、マイナンバーカード等の更新漏れ・遅れにより、行政サービス りよう にちじょうせいかつ ししょう しょう じれい けんない みう の利用や日常生活に支障が生じる事例が、県内でも見受けられる。 ほんかだい がいこくせきけんみん かながわ かいぎ だい き るいじ ていげん おこな ・本課題については、外国籍県民かながわ会議（第8期）においても類似の提言が行 われており、県からは他団体からの要望も踏まえて「国への要望」を行ったとの回答 が示されている。一方で、現時点では、外国籍県民にとって分かりやすい案内の仕組み けんいき じゅうぶん せいび い がた ぐたいてき かいぜん すす が県域として十分に整備されているとは言い難く、具体的な改善が進んでいない じょうきやう 状況にある。</p> <p>く に ようぼう けん かんかつ ほんい じょうほう たいけいてき せいり ・このため、国への要望にとどまらず、県が管轄する範囲において情報を体系的に整理 し、みちか ぎやうせいまどぐち たやう ばいたい つう ていきやう たいせい せいび きやうむ 身近な行政窓口や多様な媒体を通じて提供する体制を整備することが急務であ る。</p>

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-⑤】

<p>タイトル</p>	<p>がいこくうんてんめんきよきりかえてつづき こんざつかんわ む とりくみ 外国運転免許切替手続における混雑緩和に向けた取組</p>
<p>内容</p>	<p>きんねん がいこくうんてんめんきよきりかえてつづき しんせい ぞうか なか てつづき じかん よう ・近年、外国運転免許切替手続の申請が増加する中で、手続に時間を要する じょうきょう じょうきょう ふう りようしや りべんせいこうじょう えんかつ 状況が見られる。こうした状況を踏まえ、利用者の利便性向上と円滑な せいどうんどう ほか かんてん かながわけんけいさつほんぶ つぎ てん けんどう 制度運用を図る観点から、神奈川県警察本部において、次の点について検討す る。</p> <p>しよるいしんき ひつきしけん よやくほうほう みなおし ・書類審査および筆記試験における予約方法の見直し がいこくうんてんめんきよきりかえてつづき しよるいしんき ひつきしけん 外国運転免許切替手続における書類審査および筆記試験について、ネット よやく どうにゆう ふく よやくほうほう みなお けんどう たいきじかん たんしゆく てつづき 予約の導入を含めた予約方法の見直しを検討し、待機時間の短縮や手続の えんかつか 円滑化につなげる。</p> <p>こんざつかんわ む とりくみ すいしん ・混雑緩和に向けた取組の推進 たじちたい とりくみじれい さんこう けんない じつじょう げんぼ かだい ふまえ、 じんいはいち ぎょうむんよう くふう しけんたいせい みなお じつこうかのう こんざつかんわさく 人員配置や業務運用の工夫、試験体制の見直しなど、実行可能な混雑緩和策に ついて検討・実施を進める。</p> <p>けんどう じつし すず ・あわせて、必要に応じて神奈川県や関係機関と連携しながら、現場の状況 を共有し、より利用しやすい手続環境の実現に向けた取組を進める。</p>
<p>理由</p>	<p>がいこくせきけんみん ぞうか うんてんしゆぶそく たいおう はいけい がいこくうんてんめんきよきりかえ ・外国籍県民の増加や運転手不足への対応などを背景に、外国運転免許切替 てつづき じゆよう こんご ぞうか み こ 手続の需要は今後も増加することが見込まれる。</p> <p>いっぽう よやく と たいききかん ちようきか しゅうろう にちじょうせいかつ ・一方で、予約の取りづらさや待機期間の長期化により、就労や日常生活に えいきょう う がいこくせきけんみん み 影響を受けている外国籍県民も見られる。</p> <p>じょうきょう がいこくせきけんみん せいかつかんきょう こうじょう たぶん かきょうせい すいしん ・こうした状況は、外国籍県民の生活環境の向上や多文化共生の推進とい かんてん じゆよう かだい かなげいきかん れんけい むり かたち う観点からも重要な課題であり、関係機関が連携しながら、無理のない形で かいぜん ほか のぞ 改善を図っていくことが望まれる。</p> <p>げんぼ じつじょう ふ うんようめん くふう すず りようしや ・そのため、現場の実情を踏まえた運用面での工夫を進めることで、利用者・ じつしがわそうほう えんかつ てつづき きたい ほんていげん おこな 実施側双方にとってより円滑な手続につながることを期待し、本提言を行う。</p>

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-⑥】

<p>タイトル</p>	<p>がいくせきけんみん あんしん ろうご さき たげんごしえん かくじゅう 外国籍県民の「安心できる老後」を支える多言語支援の拡充</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けに多言語でガイドンスチャートを作成し、誰もが制度を理解できるよう、多言語支援を拡充する。また、外国人の当事者や家族向けにセミナーを実施する。 ・外国人高齢者多言語支援ラウンジとして、外国人高齢者が学び、意見交換できるスペースの構築を促進する。 ・外国人介護者など、高齢者に関わる人向けのセミナーも開催する。
<p>理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの外国人が日本で高齢期を迎えている。外国籍県民のニーズを考えると、老後を迎えるにあたり、多くの人々が、ゆったりとくつろぎ、楽しみながら学び、過ごせる場所を求めている。日本人と気軽に交流できない外国人高齢者のために、多言語で生活システムに関する相談やアドバイスを受け、日本での老後を楽しく過ごすためのヒントを提供できるような場を作る必要がある。 ・日本での高齢化制度について調べてみたところ、ガイドは作成されているものの、全て日本語でしか書かれていない。制度を理解していない人、そもそも制度について知らない人が、どうやって支援を受けられるのかについて分かる資料を作成する必要がある。

<p>タイトル</p>	<p>AI × 外国人材育成による 神奈川県グローバル競争力強化プロジェクトの推進</p>
<p>内容</p>	<p>・神奈川県における外国人材の育成と地域定着を目的として、以下の施策をAI技術と連携しながら段階的に実施する。</p> <p>・ただしAIは問題解決の手段であり、導入のみで全てが解決するわけではないため、運用では、「人による判断」、「検証」、「改善」を前提とする。</p> <p>1 AI日本語・職業スキル教育プラットフォームの提供</p> <p>・AIが個々の外国人の理解度・職種・母語に応じて学習内容を最適化（介護・製造・飲食・ITなど）</p> <p>・発音矯正や自動翻訳機能付きの会話練習アプリも連携</p> <p>[追記]AIによる言語習得は一定の時間を要するため、短期成果を過度に期待せず、レベル別カリキュラム／到達度テスト／学習ログに基づく改善を組み込み、段階的に精度を高める。</p> <p>2 行政・教育機関向けダッシュボードの構築</p> <p>・外国人材の学習進捗・定着状況・相談履歴をAIで分析し、政策判断に活用する。</p> <p>・効果検証をしながら、横浜・川崎・藤沢などのモデル自治体から、順次展開する。</p> <p>[追記]AIは文章や要約の精度が高く見えても真偽判定が難しい場合があるため、ダッシュボードは根拠データの出所の表示（ログ・参照先）／人によるレビュー／監査の可能性を確保し、誤分析が政策判断に直結しないよう、影響を少なくする仕組みを設ける。</p>
<p>理由</p>	<p>1 労働力の確保と産業の維持</p> <p>・神奈川県では2040年までに高齢化と生産年齢人口の急減が予測される。</p> <p>・外国人材は今後、介護・物流・建設・製造など県内主要産業の中核を担う存在となる。</p> <p>・早期育成と定着支援をAIで効率化することで、人手不足への備えが可能になる。</p> <p>[補足]AI導入の効率化成果が「微妙」になり得る点を踏まえ、導入＝成果とせず、実務フローの見直し・教育・運用設計（人の関与・QA）まで含めて効果を出す。</p>

- 2 「^{ていちやくしえん}定着支援」が^{たけん}他県との^{さべつか}差別化ポイントになるため
- ・^{きんりん}近隣の^{あいちけん}愛知県・^{おおさかふ}大阪府も^{がいこくじんざいかつよう}外国人材活用を^{すいしん}推進しているが、^{きょういく}教育・^{ていちやく}定着の^{せいび}インフラ整備には、^{かだい}まだ課題が^{のこ}残っている。
 - ・^{かながわけん}神奈川県が^{かつよう}AIを活用した^{しえんたいせい}支援体制をいち早く^{ほや}整備^{せいび}することで、「^{がいこくじん}外国人に^{えら}選ばれる^{けん}県」、「^{きぎょう}企業に^{えら}選ばれる^{けん}県」として^{リード}リードできる。
- [^{ほそく}補足] ^{さべつか}差別化は「^いAIを入れたこと」ではなく、^{ごあんない}誤案内を抑えつつ^{りようしやたいけん}利用者体験^あを^{うんよう}上げる^{ひと}運用（^{きぎょうどう}人×AIの^{ひょうか}協働、^{かいぜん}評価・^{じつげん}改善サイクル）で^{実現}実現する。
- 3 ^{かんこう}観光・^{じんざいせんりやく}グローバル人材戦略とも^{れんどうかのう}連動可能
- ・^{きょういく}教育を受けた^{がいこくじんざい}外国人材が、^{かんこう}観光・^{ぼうえき}貿易・^{ぶんかこうりゅう}文化交流の^{になて}担い手となることで^{かながわけん}神奈川県の^{こくさいか}国際化を^{けんいん}牽引できる。
 - ・^{とく}特に、^{りゅうがくせい}留学生や^{ぎのうじっしゅうせい}技能実習生が^{かながわけん}神奈川県に^{なが}長く^す住み^{つづ}続ける^{なが}流れが^う生まれ^れれば、^{じんこうげんしょう}人口減少の^{ほど}歯止めにも^{つながる}つながる。
- [^{ほそく}補足] ^{かつよう}AI活用は^{もくてき}目的ではなく、^{がいこくじんざい}外国人材が^{ちいき}地域で^{ちから}力を^{はつき}発揮し^{つづ}続けるための^{しゅだん}手段として^い位置^{ていちやく}づけ、「^{せい}定着」を^{せいか}成果として^{はか}測る^{せつけい}設計にする。

せいかつこうじょうぶかい
【生活向上部会-⑧】

<p>タイトル</p>	<p>たぶんかこうりゅう かくじゅう 多文化交流イベントの拡充</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>こと ぶんか かしかん も ひとびと ちよくせつこうりゅう ば ていきょう こくさいしゃかい ・異なる文化や価値観を持つ人々が直接交流する場の提供により、国際社会 と繋がる機会を設ける。</p> <p>こうほう きょうみ おう じっし かつよう とくてん ていきょう ・バイリンガルの広報、興味に応じたイベントの実施、SNSの活用、特典の提供 を行う。</p> <p>とりくみれい (取組例)</p> <p>にほんじん さんか りょうり おんがく しゅみ い ・日本人も参加しやすいように、料理、音楽、スポーツなどの趣味を活かした 交流を設計する。</p> <p>がいこくじん にほん なつまつ さんか しょくぶんか きょうりゅう ・外国人が日本の夏祭りに参加して食文化を共有する。</p> <p>としよ わかも の こうりゅう むかしばなし き かい さどうたいけん きかく ・お年寄りと若者の交流として、昔話を聞く会や茶道体験などを企画する。</p> <p>しょうかい にほんご つか ・「ふるさとの紹介」、「日本語のスラングを使ってみよう」など、テーマを設 けた会話イベントも効果的である。</p>
<p>りゅう 理由</p>	<p>そうごりかい こと ぶんか かしかん し ごかい へんけん へ ・【相互理解】異なる文化や価値観を知ること、誤解や偏見を減らすことが できる。直接交流することで、お互いを尊重する意識が高まる。</p> <p>こりつ ぼうし がいこくせきけんみん げんご ぶんか ちが ちいき こりつ ・【孤立の防止】外国籍県民のなかには、言語や文化の違いから地域で孤立し てしまう人もいるため、交流の場を増やすことで、安心して相談できる関係 を築くことができる。</p> <p>ちいきかっせい たいよう ぶんか まじ あらた ・【地域活性化】多様な文化が交わることで、新しいアイデアやイベントが 生まれ、地域の魅力の向上につながる。国際的な視点を持つ人材の活躍も 期待できる。</p> <p>きょうせいしゃかい じつげん しゃかい たぶんかきょうせい さ とお ・【共生社会の実現】これからの社会では、多文化共生は避けて通れない。 交流の機会を増やすことは、互いに支え合いながら暮らせる、持続可能な 地域社会づくりの基盤となる。</p>

タイトル	<p>たぶん かきょうせいぼうさい (かながわ) かいぎ そうせつ 多文化共生防災パートナーシップ (神奈川県) 会議の創設</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>・神奈川県内の外国籍県民への災害時支援を円滑化するため、平時から官民・国籍横断のネットワークを構築する。</p> <p>・県の災害多言語支援センターに加え、外国人コミュニティ、大使館、国際交流協会、民間企業、NPO等が参画する多層的な連携体制を整え、平時には情報共有・訓練・団体の把握を行う。</p> <p>・災害発生時には、外国籍県民の状況把握、情報伝達、国外・民間からの支援受入れなど、行政単独では困難な機能を協働で補完し、災害弱者への支援を迅速化する「ネットワーク」を創設する。</p> <p>○ ネットワークの主要機能</p> <p>1 平時 (年間1～2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有、県からの防災情報・制度説明 ・団体情報の棚卸し (人数、支援力等) ・国籍別団体との顔つなぎ <p>2 災害時</p> <p>情報伝達ラインの一斉起動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体に状況把握 (被害・行方不明・支援ニーズ) を依頼 ・物資・人的支援の受援窓口の一本化 ・団体→外国籍県民への「情報」伝達 ・外国人コミュニティの避難行動支援 <p>3 災害後 (復旧期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体からの課題吸い上げ ・各外国籍県民のフォローアップ <p>○ 構成案</p> <p>【第1段階：中核ネットワーク団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かながわ国際交流財団 ・外国籍県民かながわ会議 ・国際交流協会 (市町村) ・中規模以上の外国人団体 (大使館含む) ・民間企業 (通信・物流・生活関連)

	<p>↓</p> <p>【第2段階：実働・地域レベルネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在日〇〇人コミュニティ（地域会） ・商店街（中華街など） ・留学生団体（学生会など） ・NPO/NGO（多文化・福祉・防災）
<p>りゆう 理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携体制の現状把握とギャップ ・外国籍県民への情報伝達の課題 ・外国人コミュニティの弱さ ・国外・民間の物資・人的支援の受入れが課題 ・平時からの関係構築の必要性

<p>タイトル</p>	<p>がいこくせきけんみん しんりしえん 外国籍県民への心理支援</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>がいこくじんしんりごじょかい しんりそうだん せつりつ つう がいこくせきけんみん ・外国人心理互助会と心理相談ホットラインの設立を通じて、外国籍県民に しんり せいぎょう ごじょかい ひりんしやうてき 心理サポートを提供する。(互助会是非臨床的なもの)</p> <p>がいこくじんしんりごじょかい だれ じぶん かんじやう けいけん きやうゆう たが ささ あ ・外国人心理互助会では、誰もが自分の感情や経験を共有し、互いに支え合 う。</p> <p>さんかしゃ しんこく もんだい あり いりやうかいにゆう ひつやう はんめい ばあい しんり ・参加者に深刻な問題があり、医療介入が必要なことが判明した場合は、心理 かうんせりんとくや医療機関の情報を提供する。</p> <p>○ もくひやう 目標 りべんせい たか よこはまし かわさきし ねんかん にん 利便性の高い横浜市または川崎市において、2年間で10人のメンタルヘル ス向上を支援する。</p> <p>※ さんかしゃすう まんぞくど アンケート、しんりしやくだ さんかしゃ かげつ しんり 参加者数、満足度アンケート、心理尺度(参加者の3ヶ月ごとの心理 しつもんひやう もち ひやうか ひやうか 質問票を用いた評価)で評価する。</p> <p>○ マーケティングけいかく 計画 いんさつ よこはまし こくさいこうりゆう くやくしよ はいふ チラシを印刷し、横浜市の国際交流ラウンジと区役所でチラシを配布する ほか、ソーシャルメディアとウェブサイトじやうほうはっしん で情報発信をする。</p> <p>○ うんえいけいかく 運営計画 とうしよ にほんご えいご りやうほう かつどう おこな きかん ・当初は日本語と英語の両方で活動を行う。プロモーション期間の2 かげつご から、プログラムは隔週で運営を開始し、需要にに応じてちやうせい 調整する。</p> <p>・このグループは相互支援グループであるため、せんもんか しどう じっし 専門家の指導なしでも実施 できる。かつどう すず せんもんか しどう もと けんとう 活動が進むにつれて、専門家の指導を求めることも検討する。</p> <p>○ ざいむけいかく 財務計画 かいいん しょうがく かいひ しはら おも かいじやう ひやう ・会員は少額の会費を支払う。主に会場レンタルとプロモーション費用の ための費用は補助で賄う。</p> <p>・ホットラインの運営資金は行政が提供する。また、ぎやうせい 行政がボランティア さいやう しんりしえん しえん を採用し、心理支援ホットラインを支援する。</p>

りゆう
理由

・21世紀以降、外国人を含む多くの人々の心理的問題が深刻化している。特に外国人は、言語や文化の違いにより、孤立感や無力感を抱きやすい。

・(公財)日本生産性本部の調査によれば、20～30%の人がメンタルヘルスの問題を抱えている。外国人は言語の壁や社会統合の課題により、メンタルヘルスの問題を抱えやすい。

「心の病」が多い年齢層は「10～20代」が37.6%で前回(2023年)調査(43.9%)に続いて最も多く、次いで「30代」(33.5%)、「40代」(18.8%)、「50代以上」(10.0%)の順だった。

https://www.jil.go.jp/kokunai/blt/backnumber/2026/01_02/special_02.htm

1

・現在、外国人向けの心理サポート団体は存在しない。日本には心理学会や公認心理師協会など、既に団体は存在するが、これらの団体は本提案の目的に合致しない。既存のホットラインはNGOによって提供されているが、待ち時間が長い。そのため、行政が心理的支援のホットラインを提供することが望ましい。

【情報部会－①】

<p>タイトル</p>	<p>外国人生徒の保護者のための高校受験情報の発信</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人保護者に、高校受験の流れや仕組み、必要な準備について、やさしい日本語や図を使って分かりやすく伝える仕組みを作る。高校受験の情報は、特に、中学1年生の早い段階から、少しずつ説明していくことが大切である。 NPO法人ABC ジャパンは、外国につながる子どもや家庭を支援している団体で、進学ガイドなどの資料を作っている。しかし、その資料が十分に使われていないことがある。 すでにある資料を活かしながら、学校を通して、全ての家庭にきちんと情報が届く仕組みを考える。 また、学校だけでなく、地域の国際交流団体やNPOとも協力して、情報を広く伝える方法についても検討する。
<p>理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人保護者は、日本の高校受験を経験していない。そのため、制度や手続がよく分からないことがある。 保護者として高校受験を経験した際、「内申点」や「評定」など、難しい言葉が多くあった。また、3年生の成績がより大きく評価されることも、あとから知った。このようなことは、早く知っていないと間に合わない、大切な情報である。 学校の説明は生徒向けが中心になることが多く、子どもが十分に理解できない場合、保護者に情報がうまく伝わらないことがある。その結果、受験の準備や時期が分からず、不安になる家庭もある。 早い段階から分かりやすく情報を伝えることで、保護者が安心して子どもの進路を支えることができる。

【情報部会－②】

<p>タイトル</p>	<p>がいくせきけんみん たい せいかつ じゅうじつ 外国籍県民に対する生活オリエンテーションの充実</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命や安全に直結する医療および防災を重点分野として、基本的な生活ルールとあわせて優先的にオリエンテーションを提供する。 ・在留期間、世代、家族構成等に応じ、ライフステージごとの課題を踏まえた段階的な内容とする。 ・出身国・地域の違いを踏まえ、可能な限り母語による対応を進め、通訳・翻訳の体制を充実する。 ・日本語講座に限定せず、地域行事、相談事業、防災訓練、企業との連携など、多様な機会を活用して実施する。 ・受け手の視点に立った情報伝達へ転換する。多言語による案内、動画等の視覚的媒体、QRコードなどを活用し、既存の情報資源も取り入れながら、外国籍県民が必要な情報へ円滑に到達できる仕組みを構築する。 ・生活オリエンテーションを計画的かつ継続的に実施し、対面方式とオンライン方式を併用することにより、参加しやすい環境を整える。 <p>○ 期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活オリエンテーションが充実することで、外国籍県民の不安が軽減され、災害時や緊急時にも適切な行動が取りやすくなる。また、地域とのつながりが深まり、ともに支え合う社会の形成にもつながることが見込まれる。
<p>理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県では、就労、留学、家族滞在等を理由に地域で生活する外国籍県民が着実に増加している。国籍や在留資格、在留期間も多様化しており、外国籍県民のニーズは一層複雑かつ広範なものとなっている。 ・外国籍県民が地域で安定した生活を営むためには、医療、教育、防災、行政手続、地域の生活ルールなどに関する情報を、適切な時期に、理解可能な形で得られる環境が不可欠である。しかしながら、必要な制度や支援策が存在しているにもかかわらず、言語の壁や情報入手経路の違いなどにより、十分に活用されていない状況が見受けられる。 ・また、生活オリエンテーションの実施については、既に取り組んでいる市町村もある一方で、実施の有無や内容、提供方法に差があり、地域間で支援水準にばらつきが生じている。結果として、有益な情報があっても必要とする外国籍県民に届かないという課題が指摘されている。 ・さらに、来日間もない外国籍県民と長期在住者とは直面する課題が異なり、世代や家族構成によっても、必要な支援内容は変化する。このため、一律

じょうほうていきょう たいしょうしゃ じょうきょう おう こま たいおう もと
の 情報提供ではなく、対象者の状況に応じた、きめ細やかな対応が求めら
れている。

じょうきょう ふ がいこくせきけんみん ちいきしゃかい いちいん あんしん せいかつ
・ こうした状況を踏まえ、外国籍県民が地域社会の一員として安心して生活
のうりよく じゅうぶん はつき かんきょう せいび せいかつ ひつよう きそてき
し、能力を十分に発揮できる環境を整備するためには、生活に必要な基礎的
じょうほう たいけいてき けいぞくてき ていきょう し しく こうちく きゅうむ
情報を、体系的かつ継続的に提供する仕組みの構築が急務である。